

職工の勢ひ 陣闘さる 群集心理を巧に利し 住吉署前でも暴行

十日 大坂時事

濛々たる黄沙の下に 警官と亂闘 二千の藤永田職工と 五百名の應援警官隊 解散を肯ぜず衝突

夕刻所報の如く住吉へ集合した藤永田龍工團約二千名は二十九日朝船所から船達されたが、對して莫切者の出現を認め、警備隊は迅速に現場に到着し、職工の集まれる小丘前の廣場に現れた大監警官は遊軍の二隊を率いて小丘背後へ廻り後を命じたが各部へ顔見せず第九に突如後退した遊軍警官はいきなり十四五名の職工を突き落したので新しく見た廣場の各部に

ね 結束を 固うべく勵 講したる塵 一時頓挫して住吉署

此の時風の利いた獲息がカーキ色の二人を 拉して さんく正路を 高登壇の方へ飛び出したので他の職工運は期せずして之を遣ひ出したので混闘の廣場を水の邊へ越え、職工の列が揺れたので、新しく二百餘名の警官は職工五百名餘りを公園に引入れ残り全部人口で、奪止め十三間堀川を堤防を北上せしめ職工の勢ひの全失に成功した公園に入れた二隊は住吉署に検束され、園中に取戻さんさ住吉署に殺到したが留守警官は職員はいつかなだた三三工部部署長の間に小競合始まり、職道改造中の盛石を取つて投げ置きの噴水をメチャメチャにするので此處でも復も五名の検束者を出したが間もなく決闘に歸した職工團は大坂へき別掲けた大通りの事であり一般市民への退去したのは上出来であつた

殺氣立

ち小丘目掛け 突進せんし警官數名これ を喰ひ止めんとし、此に應なくも、列なる大亂闘が開かれ數十名入亂れて叫喚する中に藁が飛び砂が投げられ狂々たる黄沙の舞ひ上る下に三分計り狂ひ騒いだ間に職工側からは四名の検束者を出した

殺到し

たが留守警官は職員はいつかなだた三三工部部署長の間に小競合始まり、職道改造中の盛石を取つて投げ置きの噴水をメチャメチャにするので此處でも復も五名の検束者を出したが間もなく決闘に歸した職工團は大坂へき別掲けた大通りの事であり一般市民への退去したのは上出来であつた

檢束十名

双方負傷を出す

右の職を住吉署へ檢束された左の如し 久保辰五郎(三〇) 嶋木真吉(三十二) 山田勲(三十四) 本出作藏(三十四) 藤野(三十四) 橋山(三十四) 佐三郎(四十三) 市川伊之助(二十九) 眞藤(二十九) 有富(二十九) 田秀雄(三十一)

此の時風の利いた獲息がカーキ色の二人を 拉して さんく正路を 高登壇の方へ飛び出したので他の職工運は期せずして之を遣ひ出したので混闘の廣場を水の邊へ越え、職工の列が揺れたので、新しく二百餘名の警官は職工五百名餘りを公園に引入れ残り全部人口で、奪止め十三間堀川を堤防を北上せしめ職工の勢ひの全失に成功した公園に入れた二隊は住吉署に検束され、園中に取戻さんさ住吉署に殺到したが留守警官は職員はいつかなだた三三工部部署長の間に小競合始まり、職道改造中の盛石を取つて投げ置きの噴水をメチャメチャにするので此處でも復も五名の検束者を出したが間もなく決闘に歸した職工團は大坂へき別掲けた大通りの事であり一般市民への退去したのは上出来であつた

猫に噛付く鼠

態々職工を債 慨させたのだ

第九年午後六時住吉署に署長及び司理主任は職工團第一回の交渉委員竹内外三氏は機動的に解決策を講じたが遂に何等解決策を見出されなかつた午後三時國會議員細川理永も住吉署を訪問し、職工側から職工三交渉委員は在らず要領を得ず引取つた右につき竹内氏語る

此日の騒ぎを第三者から何う見ますか、私は警察側は全く網で魚を取る様に所場に横隊に列べて前の小丘の背から連環て追ひ捕し、一歩分にも打ち取らうとする職時ですがそれでは我々の氣ですから誘はる處はない、あれで動鼠が噛まないで何うしませう、職工が復讐する程に仕掛けたことは何人にも取られません、解散を叫ぶのもよろしい、がもう廿分

右の内山田一は警察官付部部部部を打して始めより同部部の爲め押へられたるにより多数を殺傷したてである、向職工側の死者は多数の足込だが、木明であるが警察側は左の六七ある

双方負傷を出す

右の職を住吉署へ檢束された左の如し 久保辰五郎(三〇) 嶋木真吉(三十二) 山田勲(三十四) 本出作藏(三十四) 藤野(三十四) 橋山(三十四) 佐三郎(四十三) 市川伊之助(二十九) 眞藤(二十九) 有富(二十九) 田秀雄(三十一)

是は十分商榷つたらあつた、返答は起らなかつたのでせう、私は返すくも之を遺憾とします云々

労と資と……

雙方の言分

友愛會では 決議案可決 友愛會本部では九日午後代議員會を開いた結果、今後の運動方針に就き新議をなした、決議案を可決した

決議

- 一 我等は固く実行委員を任命して断じて個人的交渉に墮せず
- 二 我等は決定的團結の威力を以て幾億なる資本家の反省を期す

大坂造船工労働組合 藤永田造船所職工團 藤永田造船所職工團 藤永田造船所職工團 藤永田造船所職工團

藤永田はさうし行き詰つた、我等の強固なる團結に對して藤永田は何事もなし得ない事を痛く悟つたからだ、彼等にタツタタ結切崩し策を開始した、今朝諸君への通告書は即ちそれだ、諸君は資本家の従軍手段なる團結切切り崩し策に陥つてはならぬ、諸君は各社の通告書に返事を以て代辨する実行委員を信用して團結的交渉を繼續すればよいのだ

大坂造船労働組合